

地域とともにある学校へ

～新しい時代の教育のために～

近年、新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化や急速なデジタル化など、学校を取り巻く課題は複雑化・多様化しています。子どもたちには、次の時代を切り拓く資質・能力を習得することが求められており、学校教育が果たす役割はますます大きくなっています。これから、子どもたちの豊かな学びや成長を支えるためには、学校と家庭、地域が連携し、その特

性を活かして子どもたちを育てていくことが重要となってきます。「地域とともにある学校」を実現するため、教育委員会や学校では、さまざまな取り組みを進めていきます。

保護者や地域の皆さま、今後ご理解とご協力をお願いします。

コミュニティ・スクールが始まります

岡生涯学習課 ☎826-1111 内線5163



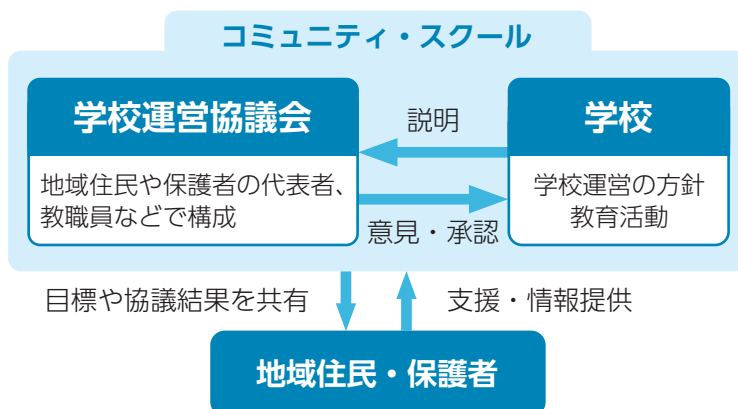
令和5年4月から、市内すべての市立小・中学校、義務教育学校にコミュニティ・スクール制度を導入しました。この制度により、地域住民の方や保護者が、これまでより学校運営に参画しやすくなることが期待されます。

コミュニティ・スクールとは？

コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会」を設置した学校のことで、「地域とともにある学校」への転換を図るために有効な仕組みとして、全国で導入が推進されています。

この協議会は地域住民や保護者の代表者、学校の教職員などで構成されます。「地域でどのような子どもに育ててほしいか」「そのために何を實現していくのか」という目標やビジョンを共有し、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てていきます。

コミュニティ・スクールのイメージ



令和3・4年度モデル校 新治学園義務教育学校の取り組み

本年度のコミュニティ・スクール制度導入に先駆けて、新治学園義務教育学校に推進委員会を設置し、同校をモデル校としてコミュニティ・スクールの取り組みを行いました。

推進委員会では、学校運営の方針が共有され、地域でできる学校支援などについて話し合いがされました。そして、委員会での意見にもとづき、学校周辺の除草作業や、子どもたちの米作り体験など、さまざまな活動が地域の方々の支援を受けて実施されました。

地域と学校の連携を
さらに進めていきます



推進委員会のようす



校庭の除草作業



地域と子どもたちの交流



米作り体験



全国的に深刻な少子化が進行するなかで、生徒数の減少にともない、今後も中学校の部活動を継続していくことが厳しい状況にあります。文部科学省は、持続可能で多様なスポーツ・文化活動の環境を一体的に整備して、生徒がさまざまな体験をする機会を確保できるように、令和5年度から3年間を「部活動の地域移

行」推進期間として、全国の自治体に対応を求めています。

これを受けて、市でも中学生が今後も活動を継続していけるように、スポーツや文化芸術活動による自己実現、部活動の意義の継承などを大切にしたい、子どもたちファーストの部活動改革をスタートします。

現在の部活動の状況

生徒数の減少

生徒・保護者の多様なニーズ

希望

たくさんの仲間と高みを目指したい
専門の指導者から教えてもらいたい

悩み

人数が少なくて満足する練習ができない
校内にやりたい部活動がない
競技・分野の経験者の先生がいない

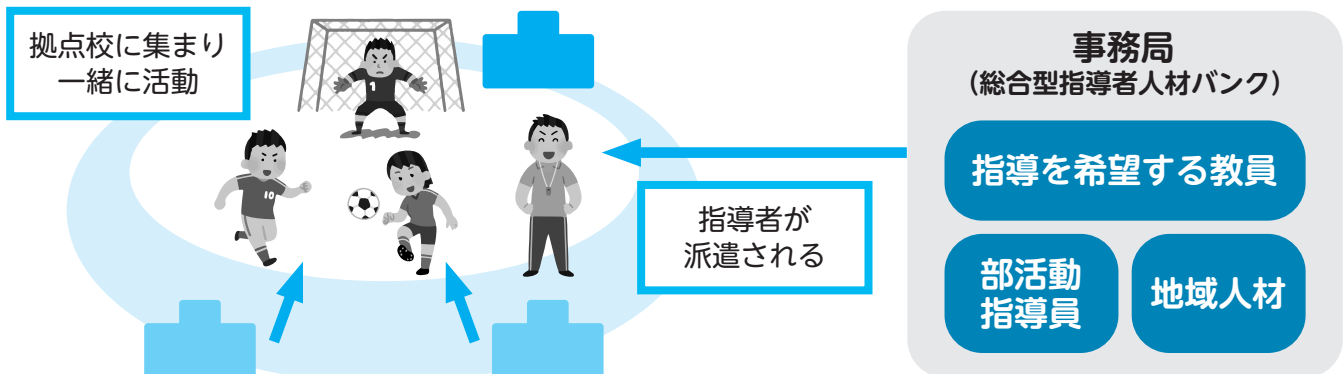
「部活動の地域移行」

部活動のよさを継承できるように、「新しい部活動」のカタチを目指します

部活動の地域移行への取り組み内容

- ・競技・分野別の拠点校へ、各学校から生徒を集めて活動する
- ・指導者を取りまとめる事務局を設立し、そこから各拠点校へ指導者を派遣する

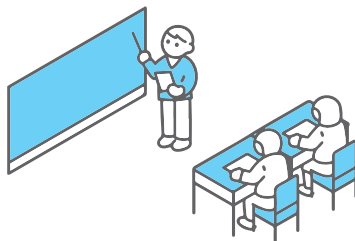
部活動の地域移行への取り組みイメージ



今年度は、休日に一部の部活動で先行実施する予定です。
部活動の地域移行の詳細については、決まり次第お知らせします。



教育委員会・学校では、教職員の業務の効率化と役割の見直しをしています。教職員が本来の業務に専念できる環境をつくることで、一人ひとりの子どもに向き合いながら、質の高い授業や個性に応じた学習指導など、よりよい教育活動を行うことができるように教職員の働き方改革を進めています。



主な取り組み

◆勤務管理の徹底

メリハリある働き方で質の高い教育活動を実現するため、時間外勤務などの削減に努めています。

【目標】

- ・時間外勤務が月45時間を超える教職員ゼロ
- ・学校閉庁日や定時退勤日を設定・実施

◆留守番電話の導入

児童生徒の下校後に教職員が授業準備に専念できるよう、留守番電話を導入しました。

◆業務の効率化

校務支援・テレビ会議システムなどの活用により、業務を短時間・効率的に進めるよう努めています